様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月　 ３ 日現在

機関番号：３２６０５
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５２８５２４９

研究課題名（和文）自国史を越えた歴史認識の共有をめざす日韓共通歴史教材の基礎的研究

研究課題名（英文）Basic Research for the Development of Common Teaching Materials on East-Asian History at Schools in Japan and Korea: Aiming at Shared Historical Recognition beyond National Histories

研究代表者
田中　暁龍（TANAKA, TOSHITATSU）

桜美林大学・人文学系・教授

研究者番号：３０５１１８５２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　11,400,000円

研究成果の概要（和文）：日本と韓国の歴史学研究者・教育研究者・高校教師の間で共同研究を行い、計5回の国際シンポジウムを開催し、その都度、日韓共通歴史教材案の報告集を作成し、教材案の検討を行ってきた。
　教材作成にあたっては、日韓で共有しうる学習テーマ（古代～現代）を挙げ、それを協同で練りあげるスタイルを採用してきており、従来の歴史叙述ではなく、高校の歴史授業に即して「歴史資料」と「発問」で構成されている。
　その結果、「1章：文化理解」、「2章：現代的課題」、「3章：時代別テーマ（前近代と近現代）」、「4章：地域史」という4つの領域を設け、計4章45節の教材案を作成するに至った。

研究成果の概要（英文）：The project members are researchers on East-Asian history and education as well as high school teachers from Japan and Korea. We held five international symposiums, where the drafts of teaching materials composed by each member were examined.
Before composing the drafts, we had discussed what should be picked up as common topics to be studied by Japanese and Korean students. We, Japanese and Korean members cooperated to make the drafts feasible ones. As a result, we composed teaching materials that combined raw historical documents with some questions for students to answer. They are designed to fit actual classroom activities rather than following the descriptive style of conventional textbooks.
Our final product is a collection of materials that can be divided into four distinct categories according to their themes-- cultural understanding, present-day problems, studies on specific eras (the pre-modern and the early-modern) and regional histories.

研究分野：日本近世史、歴史教育

キーワード：歴史教育　日韓共通歴史教材　歴史認識　日本史　韓国史　日韓交流史　国際シンポジウム　歴史総合

１．研究開始当初の背景
(1)研究代表者及び研究分担者らは、平成 9 年から平成 17 年までの間、日本と韓国で 15 回のシンポジウムを開催し、日韓共通の歴史教材作りを行ってきた。その成果として、日韓両国の高校歴史教科書を分析した歴史教育研究会編『日本と韓国の歴史教科書を読む視点』（梨の木舎）や、実践研究をふまえた歴史教育研究会編『日本と韓国の歴史共通教材をつくる視点』（梨の木舎）などを刊行し、最終成果として、平成 19 年に歴史教育研究会（日本）・歴史教科書研究会（韓国）編『日韓歴史共通教材　日韓交流の歴史－先史から現代まで－』（明石書店、以下『日韓交流の歴史』と記す）を日韓同時に刊行した。『日韓交流の歴史』は、両国の歴史や交流の展開を、時代ごとに具に検証して、先史から現代に至る交流の全体像を歴史教材として提示した点に特徴があった。

(2)『日韓交流の歴史』の課題としては、授業で活用する上で、育てるべき生徒の思考力や歴史資料を扱うスキルに関する配慮に不十分な点がみられた。また、共同研究中にも、日韓をめぐる歴史認識の状況は大きく変化したほか、考古学上の新発見や現代史の見直しを迫る新史料の発見があり、教材の叙述内容の変更が必要になった。

(3)近年、韓国教育部が高校の歴史科目「東アジア史」を新設・実施に至っており、この科目が、『日韓交流の歴史』を含む共通教材をめぐる議論の高まりを素地にして構想され、自国史にとらわれることなく、東アジアの歴史・文化を客観的に理解することを目標としている。こうした韓国側の新しい動向に応えるべく、日本でも日本史・韓国史の歴史叙述・歴史認識の可能性を再度検討し、高校の教育現場で実際に用いることが出来る教材づくりを目指すことが急務となっている。

２．研究の目的
(1)日本・韓国双方の歴史研究や教育研究の成果を踏まえて、日韓の共同研究を計画し、歴史問題や自国史を越えた相互理解と歴史認識の共有を目指して、高校の授業で活用に資する日韓共通の歴史教材を作成することである。

(2)歴史研究者や歴史教育研究者のほか高校現場の教師も加わって、具体的な教育実践を目指した教材作成を行う。その際、先史から現代までを網羅した研究を目指すとともに、韓国側の研究者との共同研究を企画することで、日韓両国の高校生や教師らの歴史認識や歴史意識の創造に大きく寄与することが可能である。

３．研究の方法
(1)本研究の 3 年間の取組みは、日本と韓国の歴史研究者や歴史教育者、高校現場の教員らが、国内での研究会を踏まえ、日韓国際シンポジウムを実施し、最新の研究動向を相互に理解し、教材案を検討・作成する。

(2)本研究は、日本と韓国両国に共通する高校生用の歴史教材を作成することを目的としており、そのためには両国で『日韓交流の歴史』の成果と課題を総括した後、新しい教材のテーマ案と内容を時代別の分科会や全体会で検討することが必要である。また、計画的、継続的に国内の研究会とシンポジウムを積み重ね、研究・調査活動を通して教材に必要な史料の収集を行ない、作成した教材については現場の実践を経て検証を行う。

４．研究成果
(1)平成 25 年度は、平成 26 年 1 月に第 1 回日韓国際シンポジウムを開催し、歴史教育研究会編『日韓交流の歴史』の成果と課題、韓国の高校の選択科目「東アジア史」の現状と課題、の 2 つのテーマで、日韓双方の報告及び討論会を行った（会場：國學院大學）。そこでは、自国史の相対化の重要性や、日韓相互の文化の類似性・相違点に着目する大切さが確認されたほか、韓国における高校新科目「東アジア史」において思考力や言語能力を重視する PISA 型の学力観への対応が確認され、目指される共通教材についての意見交換がなされた。そして、シンポジウム開催に当たっては、『日韓国際シンポジウム「日韓歴史共通教材の新たな地平を目指して」　歴史教科「東アジア史」をめぐる動向と日本の動向　報告集』（平成 26 年 1 月）と、『日韓国際シンポジウム「日韓歴史共通教材の新たな地平を目指して」　日韓歴史共通教材の射程　報告集』（平成 26 年 1 月）、の 2 つの報告集を作成した。

(2)平成 26 年度には、日韓国際シンポジウムを、平成 26 年 8 月（会場：韓国放送通信大学校）と平成 27 年 1 月（会場：國學院大學）の 2 回にわたって開催し、日韓歴史共通教材案の検討を行った。シンポジウム開催前には、それぞれ『日韓合同研究会「日韓歴史共通教材案　報告集」No.１』（平成 26 年 8 月）、及び『日韓国際シンポジウム　日韓歴史共通教材案　報告集　No.２』（平成 27 年 1 月）、の 2 つの教材案の報告集を作成した。　2 度のシンポジウムと通して、高校の授業に必要不可欠なテーマを厳選して項目立てし、「Ⅰ章　文化にふれる（を理解する）」「Ⅱ章　歴史問題を考える」「Ⅲ章　時代別テーマ（前近代編）」「Ⅲ章　時代別テーマ（近現代編）」「Ⅳ章　日本と韓国を歩く」、の４章立ての構成や書式設定、分量等についても、日韓両国で一定の合意をみた。

(3)最終年度の平成 27 年度には、日韓国際シンポジウムを、平成 27 年 8 月（会場：國學

院大學）と平成 28 年 1 月（会場：國學院大學）の 2 回にわたって開催し、日韓共通の歴史教材案の検討を行った。全 5 回にわたる国際シンポジウムを通じて、日韓の研究者・教師らが実践的な角度から教材の価値を議論し、日韓で共有しうる学習テーマ（古代～現代）を挙げ、それを協同で練りあげるスタイルを採用した。教材案は、従来の歴史叙述ではなく、高校の歴史授業に即して「歴史資料」と「発問」で構成されている。その結果、「1 章：文化にふれる（文化理解）」、「2 章：歴史問題を考える（現代的課題）」、「3 章：時代別テーマ（前近代と近現代）」、「4 章：日本と韓国を歩く（地域史）」という 4 つの領域を設け、計 4 章 45 節の教材案を作成するに至った。教材案作成にあたっては、『日韓国際シンポジウム　日韓歴史共通教材案　報告集 No.３』（平成 27 年 8 月）と『日韓国際シンポジウム　日韓歴史共通教材案　報告集 No.４』（平成 28 年 1 月）、の 2 つの報告集を作成した。また、3 年間のシンポジウムの足跡や研究活動の成果と課題を『日韓国際シンポジウム　最終成果報告書』（平成 28 年 1 月）にまとめた。現在、新学習指導要領の検討が進められ、高校新科目に、近現代史を中心に世界史と日本史を融合した「歴史総合」（仮称）の新設が検討されているが、本研究の成果は、そうした新教育課程を考える一助となる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 15 件）

① 田中暁龍、韓国の歴史教育の現場レポート　―日韓共通歴史教材の手がかりを求めて―、桜美林大学　教職課程年報、査読無、10 号、2016、131-140
DOI：なし

② 小瑶史朗、国際理解教育における「地域」の再考―開放性と重層性の視座から―、国際理解教育、査読有、22 号、2016、23-32
DOI：なし

③ 鈴木哲雄、大学での「実践報告」－教材案の大学授業での利用、日韓国際シンポジウム　最終成果報告書、査読無、2016、46-54
DOI：なし

④ 藤野敦、「日韓の架け橋となった通信使」高等学校における授業実践より、日韓国際シンポジウム　最終成果報告書、査読無、2016、44-45
DOI：なし

⑤ 田中暁龍、日韓共同研究の３年間の足跡、日韓国際シンポジウム　最終成果報告書、査読無、2016、1-19
DOI：なし

⑥ 田中暁龍、日韓の高校現場をつなぐ新たな歴史共通教材の作成に向けて　―日韓共同研究の 2 年間の足跡―、桜美林大学　教職課程年報、査読無、2015、144－153
DOI：なし

⑦ 山﨑雅稔、唐における新羅人居留地と交易、國學院大學紀要、査読有、53 巻、2014、33-66
DOI：なし

⑧ 山口公一、敗戦直後の海外神社－朝鮮の神社を例に－、（追手門学院大学国際教養学部アジア学科編）アジア学科年報、査読無、49 巻、2014、43-51
DOI：なし

⑨ 國分麻里、「国民史」を超える試み－歴史教科書の改善および共通教材の作成に関する研究動向－、筑波教育学研究、査読無、12 号、2014、55-73
DOI：なし

⑩ 内田博明、『日韓交流の歴史』を用いた実践と課題、日韓国際シンポジウム「日韓歴史共通教材の新たな地平を目指して」日韓歴史共通教材の射程 報告集、査読無、1 巻、2014、1-7
DOI：なし

⑪ 朴中鉉、「東アジア史」の実践と課題、日韓国際シンポジウム「日韓歴史共通教材の新たな地平を目指して」 歴史教科「東アジア史」をめぐる動向と日本の動向 報告集、査読無、1 巻、2014、83-91
DOI：なし

⑫ 具蘭憙、韓国の歴史教育の動向、日韓国際シンポジウム「日韓歴史共通教材の新たな地平を目指して」 歴史教科「東アジア史」をめぐる動向と日本の動向 報告集、査読無、1 巻、2014、58-71
DOI：なし

⑬ 田中暁龍、日韓歴史共通教材の新たな段階、日韓国際シンポジウム「日韓歴史共通教材の新たな地平を目指して」 歴史教科「東アジア史」をめぐる動向と日本の動向 報告集、査読無、1 巻、2014、15-28
DOI：なし

⑭ 鈴木哲雄、日本の歴史教育の動向－加藤章著『戦後歴史教育史論』に学ぶ－、日韓国際シンポジウム「日韓歴史共通教材の新たな地平を目指して」 歴史教科「東アジア史」をめぐる動向と日本の動向 報告集、査読無、1 巻、2014、5-9
DOI：なし

⑮ 小林知子、朝鮮戦争下における在日朝鮮人の同時代史認識と東アジア史、歴史学研究、査読有、908 号、2013、1-11
DOI：なし

〔学会発表〕（計 6 件）
① 國分麻里、教科教育学の立場からの「教科書」研究－植民地期朝鮮の歴史教育を事例に－、アジア教育史学会年次大会、2015 年 8 月 19 日、大正大学

② 小瑶史朗、国際理解教育と「地域」－地域に根ざした国際理解教育論の歴史的検討と今日的立地点、日本国際理解教育学会全国研究大会、2015 年 6 月 13 日、中央大学

③ 山口公一、「不敬」言動にみる戦時期朝鮮のメンタリティー、日韓歴史研究者ワークショップ「流言飛語」の時代、2015 年 2 月 7 日、京都大学

④ 山﨑雅稔、金石文からみた新羅の仏教、科学研究費助成金基盤研究(B)「日本古代の仏教受容と東アジアの仏教交流」共催、平成 26 年度國學院大學文化講演会、2015 年 1 月 25 日、國學院大學

⑤ 小松伸之、世界遺産の視点を組み込んだ文化学習の展開（II）、日本社会科教育学会全国研究大会、2014 年 11 月 30 日、静岡大学

⑥ 國分麻里、韓国の学校 100 年史における植民地期朝鮮の教育－内容の分析を中心にして－、アジア教育学会大会、2014 年 11 月 1 日、埼玉工業大学

〔図書〕（計 4 件）
① 國分麻里 他、明石書店、(翻訳)韓国の歴史教育－皇国臣民教育から歴史教科書問題まで－、2015、377

② 山口公一 他 、(株)春日、アジアの学び、2015、195

③ 田中暁龍 他、小径社、歴史と文学　－文学作品はどこまで史料たりうるか－、2014、248

④ 君島和彦・山口公一 他、東京堂出版、近代の日本と朝鮮－「された側」からの視座－、2014、368

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
田中　暁龍（TANAKA Toshitatsu）
桜美林大学・人文学系・教授
研究者番号：３０５１１８５２

(2)研究分担者
小林　知子（KOBAYASHI Tomoko）
福岡教育大学・教育学部・教授
研究者番号：１０３２５４３３

國分　麻里（KOKUBU Mari）
筑波大学・人間総合科学研究科（系）・准教授
研究者番号：１０５６６００３

鈴木　哲雄（SUZUKI Tetsuo）
北海道教育大学・教育学部・教授
研究者番号：２０３７４７４６

山口　公一（YAMAGUCHI Kouichi）
追手門学院大学・国際学部・准教授
研究者番号：２０４４７５８５

山﨑　雅稔（YAMASAKI Masatoshi）
國學院大学・文学部・助教
研究者番号：４０４５９３９２

小瑶　史朗（KODAMA Humiaki）
弘前大学・教育学部・准教授
研究者番号：５０５７４３３１

小松　伸之（KOMATSU Nobuyuki）
清和大学・法学部・講師
研究者番号：８０６０９７７７

(3)連携研究者

(4)研究協力者

具蘭憙（KU Nanhee）

朴中鉉（PARK Joonghyun）

朴民力（PARK Minyeok）

申幼兒（SHIN Yooah）

黄芝淑（HWANG Chisook）

趙美暎（CHO Miyoung）

李慶勲（LEE Kyunghoon）

張翼修（JANG Iksu）

阿久津祐一（AKUTSU Yuuichi）

内田博明（UCHIDA Hiroaki）

藤野敦（HUJINO Atsushi）

ル・ルーブレンダン（BRENDAN Le ROUX）

金子勇太（KANEKO Yuuta）

小林悟（KOBAYASHI Satoru）

高柳昌久（TAKAYANAGI Masahisa）

金広植（KIM Kwangsik）

柳準相（LIU Jun-sang）

君島和彦（KMIJIMA Kazuhiko）

木村茂光（KIMURA Shigemitsu）

坂井俊樹（SAKAI Toshiki）